

牛久：学校周辺に見る自然

第25号 牛久二中

2012年8月13日発行

< カクレミノが咲きました。 >



自由研究のお手伝いで訪れた8/9、牛久二中、体育館裏のカクレミノが咲いていました。カクレミノは、関東より南の林の中にみられますが、庭木として植えられていることも多い樹木です。隠れ蓑（かくれみの）という名前の由来については、3つに裂けた葉がみのを着た姿に見えるからとか、葉がかたまって着いていて、みののように身を隠すことができるから、天狗がこの葉で身を隠すからなどの説があります。若い木の葉は3～5つに裂けていますが、歳をとって大きくなってくると切れ込みは浅くなっていくようで、二中のカクレミノではほとんどが切れ込みのまったくないまるい葉を着けていました。葉の形と明るさとの関係を研究した方もいて、暗い場所の葉ほど切れ込んでくるといことが分かったようです。このようなことは、自由研究の題材としても面白いですね。



花は高い位置に咲いていて手が届きませんが、みつを出しているのでしょう、いろいろな虫が訪れていました。左は、第21号のモッコクにも多数来ていたツマグロキンバエです。長い口吻（こうぶん）をつきだして、みつをなめていました。

← カクレミノの花みつをなめるツマグロキンバエ。



こちらにはオオハキリバチが来ていました。すぐ近くで咲いていたエンジュの花にも多数訪れていました。みつの量が少ないのか、吸っては移動し、飛んで行ってしまいました。

← カクレミノの花みつ吸う、オオハキリバチ。



↑ 花みつをなめる、クロヤマアリ。

↑ カクレミノの花序。外(下)側の花から咲き進むようだ。

クロヤマアリも来ていました。咲き終わった花が多く、もう少し早く見られるとよかったなと思いましたが、少し花の観察をしてみましょう。花卉の数かべんは？ 5枚ですね。淡い緑色あわいをしています。赤や黄など、鮮やかな花ばかりではないのですね。雄しべは？ 5本。雌しべは1本で、咲き終わった後に花柱かちゅうが残っています。花の集まり（花序：かじょ）の写真を見ると、外側（下側）の花から咲き進んでいるのが分かります。



長い口吻をつきだして、花みつをなめるオオハナアブ。複眼が大きく触角が短いなどから、ハチと見分けられる。

再び、花に来る虫に注目してみましょう。大きなハナアブが飛んできました。その名の通り、オオハナアブです。長い口吻こうふんをつきだして、みつをなめていました。ハチくらいの大きさですが、複眼ふくがんが大きく触しよつかく角が短い、腰がくびれてないなどの点で、ハチの仲間とは見分けられますね。



ヤマトシジミもみつを吸って
いました。1本の木が花を咲か
せると、いろいろな昆こんちゅう虫が集ま
りますね。【理科支援員：宮内】
花みつを吸う、ヤマトシジミ(左, 上)。